

モミジも一緒に川下り

秩父鉄道の熊谷駅から期間限定運行の蒸気機関車「パレオエクスプレス」に乗り込んだ。「ポオ」という汽笛を聞きながら、のんびりと1時間20分。煙の流れる車窓から長瀨駅が見えてきた。明治の実業家渋沢栄一が天下の勝地」と呼んだ長瀨の入り口だ。

一九一一年の開業当時の姿をとどめるレトロな木造駅舎を出て、荒川に通じる岩だたみ通りに向かう。名物「長瀨そば」や鮎の塩焼き、堅焼き煎餅。「まずは荒川の清流に」と、通りに並ぶ店先の「誘惑」を振り切ろうとしたが、みずみずしいキュウリの漬物を店頭に並べた「丹一漬物処」で足が止まった。

秩父市周辺で朝、収穫した新鮮なキュウリやナスをその日のうちに塩漬けにして、くし刺しで売っている。キュウリをほおばると、店主の強矢(すねや)徳夫さん(45)は、「本物の野

菜の味がするでしょ」と笑った。歩いて3分ほどで、隆起した岩が水の浸食で畳を敷き詰めたように平らに広がる「岩畳」に到着した。

「今からでも乗れるよ」と、川下りの船頭歴30年のベテラン、久米穂向(ほむき)さん(59)に声を掛けられる。誘われるままに長さ約10mの本船に飛び乗り、いざ荒川へ。大正期から行われているという川下りは、兩岸の紅葉や、清流を泳ぐ川魚などの豊かな自然と、巧みな竿さばきで急流をくぐり抜けるスリルを同時に味わえる人気スポットだ。

ふと、川面に目をやると、赤く色づいたモミジが、船と一緒に川下り中だった。「色とりどりの紅葉と青く澄んだ空。いいでしょ。これをお客さんに見てもらいたくて」と久米さん。水しぶきも気持ちいい。

約3時間の船旅を終えて、送迎

用マイクロバスで駅前に戻ると、また、魅惑的なおいが漂ってきた。「食欲の秋」。そうつぶやいて、岩だたみ通りに走った。(熊谷支局 森田啓文)

メモ

パレオエクスプレスは、3月中旬〜12月上旬、土日祝日を中

心に熊谷〜三峰口駅間を1日1往復運行中。今年12月3日まで。秩父鉄道営業推進課(048・523・3317)。川下りも12月上旬まで運航の予定。問い合わせは長瀨町観光協会(0494・66・3311)へ。

